

読む人の心を願って

大阪マラソン

昨秋十月、三万人の市民マラソン大会、第一回大阪マラソンが開催されました。大阪はダスキン創業の地であり本社所在地でもあります。七つある大会テーマのうちの一つ「景観を守り、美化する活動を広げよう」に賛同して、ダスキンとして協賛をさせていただきました。私自身も大阪生まれの大阪育ちなので、ぜひとも記念すべき一回目に走りたいとチャレンジラン（八・八キロ）に参加し、盛り上がり肌で感じる事ができました。

スタートの大阪城公園では号砲が鳴ってから最後尾の人が出発するまでに三十分もかかりましたが、沿道は人がきが途切れることなく、私も声援を背に気持ちよく走ることができました。みんなが出ていった後、スタート地点では近畿のダスキン加盟店や本社の社員など六百五十人がゴミを拾い集めてきれいな街づくりに協力をさせてもらいました。

思い思いのスタイルで走り、完走できた喜びにゴールで抱き合う姿。また四十二・一九五キロの道筋でボランティアの人たちが真心こめて大会を支えている姿にふれ、選手の頑張る力もさることながら、多くの人たちが互いに応援や感謝を合っている姿にこころから感動しました。

株式会社ダスキン社長

山村輝治

写真・市谷 健「ついでにどう?」「よーし、やってみっか」



no.514

喜びの タネまき 新聞

誰にも、自分にとって忘れがたい愛着のある街があると思います。扉を開けて、一步を踏みだそうとしていた…。あそこで人生を始めたんだなあという感慨です。



絵と文 中村みつを

イラストレーター、画家。
絵と文の作品は自然・旅・人がテーマで、心の和む温かさ。読売新聞夕刊のみなみらんぼうのエッセイ「一歩二歩山歩」に挿絵を描き、新聞連載最多記録14年目。日本山岳会会員。著書に「のんびり山に陽はのぼる」(山と溪谷社)、「お江戸超低山さんぽ」(書肆侃侃房)、『森のくらし』(リヨン社)など。

「忘れがたい街」

ぼくが部屋を借りて一人で住み始めた理由は、はつきりしていた。20歳になる直前のことだ。

とにかく絵を描きたかった。仲間達が集まっている東京の中央線沿線の街に、呼ばれたかのように引越した。バイトをしながら絵を描き、どうやって食べていたのか不思議な日々。フォークソングが街に流れていた。

絵の仲間や友人が集まるたまり場の喫茶店があり「ぼえむ」といった。後に有名になった漫画家も出入りしていて、その漫画には喫茶店や住んでいた街並みも出てきた。漫画家本人も「ぼえむ」のマスターも登場する話は小説のようで、絵の中で僕も生きていたという感じだ。

絵描きや詩人のタマゴが集まり、熱い議論の中に居て心地よかった。部屋に帰ると、毎日売れない絵を描き続けた。しかし議論で本物の絵描きになれるはずもなかった。幸せなのに不安だった。

「どうしたら絵描きとして認めてもらえるのだろうか？」売り込みに行く方法も知らず、自分で修業時

代みたいに思っていた。

貧乏だった。定番のブレンドは、お金の無い時、苦み走ったストリートを頼むのは気取りたい時。そして、ひたすら一歩ずつ前に進み、縁を得て人々に巡り会い絵描きになった。

今は漫画のページを閉じてしまったように、漫画家もマスターも亡くなり、店も無い。しかし昨年

「マスターの奥さんが自宅でお店を開いている」と聞き、閑静な住宅街の店を訪ね、やさしい笑顔に会ってきた。

珈琲を飲む時、隣席に夢を追う若者がいたりすると懐かしくて声援したくなるのである。



とかして冷やして、こんなにおしゃれ 「炒り大豆のチョコクランチバー」

炒り大豆は豆まきばかりでなく、バレンタインにも大活躍。スイート、ホワイトの2種類の个性的なチョコができます。パーティーなので食べやすく、歯ごたえのある食感が癖になる美味しさ。手作りチョコのイチオシです！

お料理研究家 こいけりえ



◎作り方(2シート分)

●下準備

炒り大豆 60g と
スライスアーモンド
30g は、別々にフライパンで軽く色がつく程度にローストする。この時スライスアーモンドは火が通りやすいので焦げないように弱火で。このひと手間でカリカリの食感になります。
炒り大豆は2等分にして



●ホワイトチョコレイト

ホワイトチョコレイト 120g はスイートチョコと同じ要領で湯煎で溶かす。
溶かしたホワイトチョコレイトの中に、残りの炒り大豆 30g とコーンフレーク 50g、ドライイチゴを加えてよく混ぜ合わせ、



固まったら好みの大きさにカットして出来上がり。バー状にカットするのがおすすめです。ナッツやレーズンなど好みのドライフルーツを入れても楽しめます。

おやつ時間

簡単、美味しい楽ラクレシピ



●スイートチョコレイト

細かく刻んだチョコレイト 120g はポウルに入れて湯煎で溶かす。全体が溶けたら、ポウルを湯から離します。
溶かしたチョコレイトの中に、2等分にした炒り大豆 30g、同じく2等分にしたコーンフレーク 50g、スライスアーモンドを加えて混ぜ合わせ、用意しておいたバットに流し、平らにならす。冷凍庫で5分ほど冷やしたら取り出して室温においておく。



見てうれし、見せてうれし、この写真。わたしの出番の1枚を送ってください。



「おねえちゃん!はやくはやく!」
新潟県三条市 志田百合子



まだスキップ歯だけど
鹿児島県 姶良市 宮路美鈴



お兄ちゃん大好き
愛知県豊橋市 田村昌子

家族や友だちにしか撮れないステキな笑顔、みんなに見てもらいたいわたし好みの1枚。もちろんかわいいペットも撮れたら送ってください。お待ちしております!
(詳細は7ページ)

なんでもや

なんでも売る
なんでもする

宮城県
丸森町

みんなの店でみんなが元気

「こんにちは佐藤ですう」とレジからの笑顔が、陽が射したように明るい。入口近くのテーブルに焼いたホッケとエボダイ。横に焼きおにぎり。

「もうお昼なんで。隣の調理場で作ったばかりです」絶妙のタイミングでお腹がすいてくる。

正面に公民館、すぐ横に大張小学校があるが、ここは山の中。食堂はない。あれ？と思う間に客が入りし、おにぎりが売れて少なくなる。以前はおちやつこを飲みながら、ここで井戸端会議。漬物を食べて顔見知りと笑ってたとか。

「店が狭いので今はテーブル片付けてます…」でも「お湯くれますか？」とインスタント麺を買った人にすつとイスが出てきたりする。毎日、下校時には子供達も寄っていくという。

店内は商品が一杯。なんか珍しいセリの佃煮、手搾りのエゴマ油。生け花用の花ナス。みんな生産者名つきで、新鮮な野菜も一見、農協の直売所とか道の駅風だ。けれど、どこか違う。

「販売用に生産していないんです。家族では余ってしまうから10個くらい売る、みたいな」それで野菜も梅干しもこの色、この顔つき！採算や儲けではなく、食べてもらおうと思っ出ていて、それが励みになっているのだ。

お店は住民200世帯が出資し、物販の登録者数は120人(常連50人)というからその多さに驚く。タマゴを納入しにきた女性は「うちのはお腹をこわさないうって」はすかしそうに笑う。地元の人には安くて新鮮と知っているから、規格はずれも大丈夫。養鶏所で生みたてを買う気分だ。

佐藤す江さん(76歳)のお豆腐もすごい。開店を機にご主人亡きあとの豆腐作りを再開した。「地元の大豆の味を食べてもらうのが張り合い」で、約10cmの立方体は見たこともない大きさ。味が濃くて人気商品のひとつだという。

さらに手作りのかごや工芸品。室内履き布ぞうりは布の中にワラを仕込んで編んだ丈夫さ。同じ棚で丁寧な作りの竹トンボがゆれている。ひと味違った面白い物が楽しみになる店なのです。

お惣菜から自動車まで

「なんでもや」は地域のお年寄りが買い物に困る日常を改善したいと始まった。出資者が生産者で消費者。とくべつな魅力は地元の結束だ。

クジャクの羽や派手なひょうたんは大槻さん出品。「飼っているからね。売れなくてもいいの。店に出せばみんなに見てもらえて嬉しいからね」「元氣と喜びも一緒に売り買いする店なのだ。」「なんでも売る、なんでもする」は単なる言葉ではない。惣菜、日用品から長靴、農機具、自動車まで扱う。住民の要望があれば、店長の佐久間憲治さんは車で走り回って探してくる。

請われて店長になる前は飲食店をやっていた。そのルートで魚屋さんに頼み、仕出しもする。惣菜のロスを出さないため御用聞きもする。

「顔見知りのあそこはこれが好きだろうって。お年寄りには天ぷらなんかしないから、配達すると喜んでくれる」毎日15〜20軒は行く。

年末年始以外は年中営業。「これからの夢は隣に飲める場を。夜の帰宅も安心」みんな益々仲良く楽しくなるだろう。考えてみたら、店長も佐藤さんも大張の住民。ここで成長してここで老いる日本の原風景…。天水の棚田や美しい山野を訪ねついでに行くと元氣になれるかも。

元気でパワーがある

小さいけれども



佐久間さんと佐藤さん。身を粉にして働く2人の後ろに住民の力が。実は総務大臣賞も受賞。

「花ナスを生け花にってここら辺の方が置いていくんです」13坪の店はそういう品で一杯。



「百姓は30年前だったから良かった。今はただ働かないと。農業は国の礎だよ」思わず背筋が伸びる言葉。



「歩いて封筒一枚買えないなんて」。山間の集落で小売店が閉店。町まで10km、住民は今900人位、高齢者は4割超。そこで住民が共同出資。お店は8年も立派に続いています。



専業農家さんは1軒位。高齢の方が自宅で食べきれない野菜や、食べてもらいたい品を持ち寄り、しゃべって笑って買って帰る。



「2001年頃にお店がなくなっちゃって、困ったの。ここはみんなの店。便利ですよ」とタマゴ屋さん。



ここで穫れたお米とお味噌で作った焼きおにぎり。お弁当の日もあるし、仕出しを頼まれることも。



雪かき

長野県高森町 原富佐恵

大雪の日のことです。プロパンガス屋さんが替えのポンベを持ってきてくれ、いつもの場所に据えてくれました。お礼を言おうとすると、「こんな所まで雪かきしてくれて、仕事が早く済んだ。ありがとう」と逆にお礼を頂きました。おじさんの話では、どの家もポンベの置き場は雪かきをしていないので、雪かきをしてから重いポンベを運ぶのだということでした。すごく嬉しくなっていると、その日は電気料金を調べに来たお姉さんにも同じことを言われました。いつも同じようにしている雪かきなのに、人に喜んでもらえて、この日は雪かきの疲れもふっ飛んでしまいました。雪かきは大変な仕事です。でも、みんなが嬉しいと笑顔で喜んでくれると思うと身も心も軽くなりました。

——喜ばれるとほかほか、あったかい——



おこぎり

秋田県大仙市 戸嶋タカ

もう何十年も前の冬の話です。私はある家の葬式を手伝いに行きました。その家は普段から次男の嫁さんが家事を手伝っていましたが、三度の食事もゆつくり食べられないほどの忙しさ。少し遅れると落ち落ちしてられず、ろくに食べられないこともあったようです。

当日の準備で、私はお客さんにお出しするご飯を炊くのを頼まれていました。鍋底についておこげをにぎり、次男の嫁さんに「つあげると、お嫁さんはニコッと笑い、ありがとうと言われました。私は何の気もなくしていましたが、後になって彼女と色々な話をするたびに、「あの時のおにぎりのことは忘れられないわ」と聞かされるので、私も良かったなあと嬉しく思い出すのです。

彼女は81歳、私も87歳になりました。二人とも家族に見守られ、幸せに暮らしています。

——人生はおこげの味の深さに似て——



家族

京都府京田辺市 上佐古春菜

私が20歳のとき、妹とささいなことで喧嘩をし、全く口をきかないまま、妹は就職で家を出ました。連絡もとらず1年が過ぎた頃、祖父がガンで入院することになりました。88歳という年齢もあり、家族はひたすら見守っておりました。

2ヶ月ほど経った頃、お見舞いに行った私に「妹は頑張ってるか？」と祖父が聞きました。「国家資格取れたって！」と伝えると、ベッドの上で、細くなった両腕を一生懸命に上げ、「万歳、万歳」と涙を流しました。実家にいた頃から妹は国家資格を取るために、毎晩遅くまで勉強しており、祖父はそれを心の中で応援していました。初めて見た気丈な祖父の涙…。その後間もなくして祖父は亡くなりました。駆けつけた妹に、そのときの様子を話し、ずっと妹を応援し、また心配もしていたことを話し二人で涙しました。

そのことがきっかけとなり、妹と姉妹に戻ることができました。おじいちゃん、ありがとう。仲直りしたよ。

——今も天国から応援しているよ(おじいちゃん)



大きくなったら

鹿児島県志布志市 南曲文洋

敬老の日の出来事でした。長寿をお祝いするのでしようか、私が営んでいる飲食店に家族6人のお客様が食事にいらつしやいました。

お店は畳のお部屋です。お通しする時に、皆さん靴を脱いで上がられました。上がられた後、お孫さんらしき一番小さな女の子が、皆の脱いだ靴をきれいに並べ始めました。そして靴を並べながら、「じいちゃんの靴大きいね。じいちゃんも大きくなったら、もっと大きな靴をはくの」と言っていました。

とてもほのぼのとした光景で、温かい気持ちになりました。

——しあわせ家族ですね——



思い出

宮城県亘理町 渡辺利恵子

私は小さい頃、北海道の旭川で育ちました。それは寒くて小学校にスキーで通った日もありました。入学したては、通学路にやさしいおばさんの家があり、その顔を見ると涙が出るほど、寒さは辛かったです。おばさんには子がなくて、私を我が子のように可愛がってくれました。

宮城県に移ってから、色々な物を送ってくれたのを覚えています。引越したあとも、旭川に行く時は、会って泊まらせてもらいました。

私も今はもう72歳。そのおばさんは100歳くらいでしょうか。去年は電話を下さいました。小さい頃に可愛がっていた方は忘れ難いものです。離れていても、思い出すと涙がにじむような気がします。

——なつかしいあの笑顔——



インターホン

茨城県取手市 岡野良子

二人暮らしの両親は共に80歳過ぎ。来客から、「玄関のインターホンが鳴らないね」と言われ、何度か続いたと聞きました。

ダスキンで交換に来てくれる方は、電池が切れているのではと位置を確認し、やり方を教えてくれましたが両親は電池を替えませんでした。しばらくして、私と中3の息子で両親を訪ねると、やっぱり鳴りません。

「じゃ、直してやるよ！」息子はすぐに電池を買いに行き、あつという間にセットして完了。父は、「年をとるのは大変なんだよ！」

母は、「これからも頼むね。バイトは山ほどあるよ！」と大喜びでした。息子はなんだか、とても誇らしげでした。

——やったね！——

「一緒にいると楽しいね♪」



神奈川県相模原市 大戸優実

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●送り先
〒163-0223
東京都新宿区西新宿2丁目6番1号
新宿住友ビル23階(私書箱47号)
ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
電話 03(5909)6703
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

無料 おそうじ相談 実施中!
ダスキンコールセンター
平日の9:00~17:00
0120-100-100
No.419からのバックナンバーが下記のアドレスからご覧になれます
http://www.duskin.co.jp/torikumi/tanemaki/index.html

●2ページの中村みつをさんのアトリエ
〒167-0022 東京都杉並区下井草5-12-10-109
●4-5ページの「なんでもや」の連絡先
〒981-2302
宮城県伊具郡丸森町大張川張字宮田23-3
大張物産センター なんでもや
TEL&FAX: 0224-73-5888

燈々無尽

損の道をゆく
私は、自分に対しては「損の道を行く」と申しておりますが、実際には、いつも、これでもいいだろうかと迷う事が多いのです。そこで、他の人が、図々しかったり、出しおしみをしたり、さつさと得の道をえらぶのを見ると「あの人も損をしたくないのだ」とわかるような気がします。逆に、何時も人に与える事ばかり考え、自分に受ける事のすくない人をみかけますと、スッカリほれこんでしまつて、こういう人にこそ、もっと捧げるべきだ、と思わず献金がしたくなるのです。

鈴木清一

チャレンジ!

～あの瞬間を今に～

★'84年 アメリカ合衆国

第4期海外研修派遣生
アクセスジャパン 代表

今福義明さん(肢体不自由)



交通バリアフリー障害者リーダー養成研修(昨年11月大阪)で

愛の輪の研修で訪れたパークレーでは、電動車いすで路線バスや地下鉄にスイスイ乗れ、行こうと思った場所へどこへでも行くことができました。「移動したい」という個人の意思を重視し尊重する国民性を知ってからは、日本で電動車いすを担がれて移動しても心が以前より軽くなっていました。現在は交通バリアフリー障害者リーダー養成研修を開催し若い世代の育成に力を注いでいます。

このコーナーについては愛の輪事務局まで。
☎06-6821-5270 HP (<http://www.ainowa.jp/>)

愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障害のある若者に、海外での研修支援を行っています。

詳しくはwebで
「ダスキンのエコ」
を検索してネ。

屋上を緑化
しているのよ

屋上や建物のまわりでたくさんの緑を育てている研修施設「ダスキンスクール」は、平成22年度に「おおさか優良緑化賞」を受賞しました。緑化のほかにも、一部に太陽光パネルを設置したり、地下に貯めた雨水を草木の散水に再利用したりと、環境のためにさまざまな取り組みをしています。

【おおさか優良緑化賞】大阪府が、一定の敷地をもつ施設を対象に、環境の改善や新たな緑化モデルを採り入れている建物を表彰しています。

(ダスキン環境シンボルマーク)

エコタネ
身近に、未来に、エコのタネまき。

ダスキンのお客係募集中!!

詳しくはwebで

お客係係

検索

※お仕事内容や募集要項をご覧ください。



携帯からも
アクセス

お楽しみクイズ

緑のない所に植物を植えて
育てることをなんと言う？



化

正解者の中から30名様に
「キッチンきれいセット」を
プレゼント!



下記の要領でご応募ください。

◆ハガキに

- ①クイズの答え②郵便番号③住所④氏名⑤年齢⑥性別
- ⑦電話番号⑧現在ご利用のダスキンの店名をご記入の上、下記あて先までお送りください。

◆あて先

〒163-0265

(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞no.514」

クイズプレゼント係

※お楽しみクイズ専用の住所不要のあて先です。

◆締め切り 平成24年3月16日(金)当日消印有効

◆ダスキン関係者の応募はご遠慮ください。

◆当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。
(平成24年4月中旬お届け予定)

◆応募に関してのお問い合わせ TEL:03-5909-6703

※抽選結果に関するお問い合わせはお受けできません。予めご了承ください。

今回ご応募いただいた個人情報については、(株)ダスキンの範囲内でのみ利用させていただきます。プレゼントの抽選・発送の目的以外には使用いたしません。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞」クイズプレゼント係 TEL:03-5909-6703 までご連絡ください。

no.512のクイズの答えは「川(柳)」でした。

株式会社 **ダスキン**

発行：広報・広告部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

編集：「喜びのタネまき新聞」編集室

〒163-0223

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル23階(私書箱47号)

TEL:03-5909-6703 FAX:03-5909-6771

【お客様の個人情報の取り扱いについて】

お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループ企業と加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター

0120-100100 www.duskin.jp

●この新聞をお届けしているのは